

“Dance with Heart”  
We are burning with enthusiasm  
in creating national art for the new era.

The Kikunokai Dance Troupe  
Chairman : Satoshi Hata

# 日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会  
〒161-0031  
東京都新宿区西落合2-21-23  
03-5983-6001 (代表)

菊の会 京都八瀬研修所  
〒601-1254  
京都市左京区八瀬野瀬町10  
075-712-8701 (代表)

<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart



清元「熊野」尾上菊乃里

## 御挨拶



舞踊集団 菊の会  
代表 畑 聡

新春の候、益々ご清栄の事とお慶び  
申し上げます。

いつも菊の会を御支援くださいまし  
て、誠に有難うございます。

さて、昨年八月二十九日に畑道代前代  
表が永眠致しました。私共にとりまし  
て深い悲しみであることは勿論です  
が、菊の会三十八年間の歴史にとつて

も大変重大で衝撃的な転機とならざる  
を得ませんでした。ここに生前故人に  
賜りました御厚誼に心より感謝申し上  
げます。

菊の会創立以来、前代表は芸術創造  
をはじめとして、舞踊手の育成から舞  
踊団の経営まで一手に引き受け、全  
ての責任を一身に担っておりました。そ  
の上で更に主演として自ら舞台上に立ち  
続けて参りました。

しかしこの四年間は、前代表は病氣  
の為に舞台こそ休演いたしました。が、

それ以外の振付や指導をはじめとし、  
とても細かい事に至るまで病床で指示  
されておりました。菊の会の活動が新  
しい舞踊芸術を生み出し、そのことが

少しでも社会に役立つのをひたすら  
願っていたからです。その情熱は最後  
の最後まで休む事はありませんでした。  
た。このような師と、日々を共に出来  
た事は、弟子として大きな誇りであり  
ます。現在の公演メンバーは全員、幼  
少期より前代表により一視同仁に育て  
られ、芸のみならず人としての生き方  
までも教えられてきたのでした。それ  
だけに私達にとって、あまりにも大き  
な存在が無くなった心の痛手は、計り  
知れないものがありました。

しかし前代表が亡くなった直後か  
ら、多くの方々から慈愛に満ちた激励  
や、菊の会継続への暖かいお言葉を頂  
戴し、それによって私達がどれほど勇  
気付けられたか、感謝の気持ちは言葉  
に尽くせない程です。あらためて厚く  
御礼申し上げます。

この度、私が新たに代表を引き継ぎ  
致す事に相成りました。何分にも浅学  
非才の身でございますゆえ、皆様の御  
力添えを是非とも賜りたく切にお願い  
申し上げます。同時に前代表が残して  
くれましたこの菊の会を存続し、次代  
へ引き継いで行きますよう、一意専心  
の努力を致す決意でございます。また  
公演メンバーや事務局はもとより、  
各地域の教室の生徒一人一人に至るま  
で、菊の会一同、心を一につに結束し、  
更なる精進を重ねて参る所存です。

今後とも皆様からは変わらぬ御指導  
御鞭撻を賜りまして、新生菊の会に御  
厚情下さいます様、末長く宜しくお願  
い申し上げます。



# 畑道代の志を継承する 新体制に期待する



## 三隅治雄



創新賞受賞作品、踊り風土記「雪の華」のラストシーン



邦楽と舞踊出版社主催の「創新賞受賞パーティー」にて三隅先生と畑道代前代表と公演メンバー



踊り風土記「雪の華」千秋楽で舞台上立つ三隅先生と畑道代前代表



舞踊劇「カッチャ行かねかこの道を」より



舞踊劇「カッチャ行かねかこの道を」より



舞踊劇「カッチャ行かねかこの道を」より

長いお付き合いでした。一九七〇年、大阪万国博覧会のイベント「日本のまつり」の演出助手をお願いしたのが、畑代表との最初の御縁でした。

そこに出演した全国の名だたる民俗芸能の、さまざまな舞踏から噴出する土着のエネルギーの凄さ、表現の多彩さに衝動を受けた畑さんが、日本の舞踏の根源はここにあるのではないかと感じ、これを学び、得たものを肥やしに自身の舞踊人生を深めたいと念じました。そして二年後、舞

踊集団菊の会を創立し、名人初代尾上菊之丞から享けた古典舞踊の芸と心を基幹に、民俗芸能の研鑽を加えて、「日本舞踊」の新たな世界を拓こうと決意しました。

その旗揚げ公演に上演したのが「ふるさと囃子」で、以来、わたしは「黒潮に踊る」「津軽はるあき」「おけさ海をいく」「カッチャ行かねかこの道を」「藍の女」「馬車道の女」「阿国かぶき」「日本大通り」「寒牡丹」「追分の女」「博多どんたく譚」「土踏・波踏・舞踏」「雪の華」などの作品を

書き、畑さんはそれに振り付け、みずから演じてきました。振り返ると、三十八年間、わたしは菊の会と同じ道を歩んできたわけですね。いや、昨年もまた、畑さんと秋の京の内外を逍遙して、「美しきかな山里の京」という舞踊詩を創る構想を練りました。歩行も不自由ながら、創作欲はかえって熾烈に燃えて、日本の風土と、そこに生きる日本人の心身の美を表現し、尽すのが生涯の願いと言いつつ、畑さんです。

しかし、その完遂を見ぬままに急逝なさいました。が、畑さんは、生前、将来の発展を期して、創立時から手塩に掛けた原聰さんと、練達の高弟たちが強力な補佐役となつて菊の会の芸術活動を盤石にする体制を構築しました。

さいわい、畑さんの高邁な精神と厳しい舞踊指導は新代表畑 聡を軸とした会員一同に浸透し、新体制のもと、師の志を完遂させようと、眼を輝かしています。若く瑞々しい新菊の会の活躍を期待するゆえんです。



# AS A MEMORIAL TO MICHIOYO HATA

## 三隅治雄作品より



舞踊劇「追分の女」より



舞踊劇「藍の女」より



舞踊劇「土踏・波踏・舞踏」より



舞踊劇「博多どんたく譚」より



舞踊劇「藍の女」より



舞踊劇「阿国かぶき」より



舞踊劇「日本大通り」より



舞踊劇「阿国かぶき」山三役の若柳彦三衛門氏を迎えて



舞踊劇「日本大通り」より



畑道代師 追悼

## 菊の会大丈夫ですよ！



評論家

西形節子



西形節子先生と共に東京新聞社主催「舞踊芸術賞授章パーティー」に於いて平成22年6月撮影

やはりお引き受けするのではなかった……どうしても筆が進まないのです。これからの日本舞踊の道を託すのは貴女と思いい込んでいた私にとつては、ずっと若い貴女がこんなに早く逝ってしまったら、なんと早く逝ってしまわれるとは思っても寄らぬこと、なんとも口惜しいことでした。けれども、この辛い現実には認めなければならぬのですね。

日本舞踊一筋に駆け足で歩かれたご生涯は、さぞ忙しくお疲れになったことでしょう。それだけに常人の何十倍にも勝るお仕事をなさり、立派な「舞踊集団・菊の会」を残されました。

個の芸といわれてきた日本舞踊の世界において、集団を作り多くの団員たちを育て上げ、国内各地、海外まで公演する

プロの舞踊家集団を作り上げたのは貴女、菊の会代表・畑道代(尾上菊乃里)一人、初めてのことです。それから半世紀の月日が流れました。敗戦後、焼け野原にいち早く新橋花柳界の熱い思いで新橋演舞場が復活、まり千代、小く、染福のスターを擁した「東をどり」の人氣は一世を風靡しました。まだテレビの無い時代です。戦前は藤間と花柳の世界だった新橋に、六代目尾上菊五郎の肝煎りで西川鯉三郎と尾上菊之丞が登場、お座敷芸であった芸妓の踊りの「東をどり」が舞台芸術として花開いたのです。西川鯉三郎のドラマ性のある舞台と、尾上菊之丞の舞台を対角線に横切る独特の振付で踊る芸妓たちの舞台、いずれも物凄く新鮮に感じ

たものでした。個の芸である筈の踊りが群舞になり、座敷芸としても舞台芸術としても見事な完成を見たのは、初代尾上菊之丞の手腕によるものでした。当時十代の畑道代さんは、初代尾上菊之丞師の内弟子として修業、尾上菊乃里の名を許され、新橋のみならず、京阪の花柳界まで活躍する師匠の助手として懸命に勤められたことが舞踊人生の原点となったのではないのでしょうか。彼女の遺作となった多くの振付の中になつた尾上菊之丞の香りが偲ばれ、それを懐かしむ人々も少なくなつた今日この頃です。

構成、振付、演出を初め衣装などの美術、音楽まで一手に引き受けた上に微細なところまで自身で確かめねば気の済まない。

合掌



荻江節「鐘の岬」



「狸々」酒売り尾上青楓氏



長唄「紀州道成寺」



畑道代師追悼

# 畑道代氏の情熱



演劇舞踊評論家  
藤田 洋



1963年 先代尾上菊之丞師と共に長唄「菊の泉」を踊る

純粹で情熱の方であった。「二筋」とか、「ひたむき」と形容すると、芸に打ち込む人は誰でもそうだと反論されそうだが、畑道代さんはそこにリーダーとしての資格が

加わっていた。晩年、アトリエ公演を見に行った時は車椅子であった。病院を抜け出しても、きちんと見て指導しようという闘志力に改めておどろいた。

わたしは、逆に「みんな一人前なのだから、任せておいて、精神的に楽をしてください。病気が一番悪いのですから」と進言をした。

しかしそういう任せ方の出来ない方だということとは、十分に承知をしていた。最後の最後まで稽古場で指導を続けていたということを知ると、それがいちばん畑道代に

しい生き方だったのかも知れないとも思う。

平成七年八月に、南座で「出雲の阿国」を公演した。阿国は京都の四條河原で天下一の幟を立てて興行したという、歌舞伎の始祖と呼ばれる人物で、鴨川の橋の袂に記念碑が立っている。阿国を主人公にした舞踊劇の主人公を、その京都で踊る。京都で生れ育った畑さんには、さまざまの思いが去来したのではなかったか。この時は、三隅治雄・福田一平・西形節子といった先輩諸兄姉と一緒にだったと記憶している。

わたしは、この時以来、

阿国と畑道代を重ね合わせてみたりしている。

阿国は伝説になつていく女性だが、たぶん情熱溢れる人物だったはずだ。絵に残っている姿から、そう推測できる。男装の麗人、そして活潑な人柄、一座を率いる統率力。似ている所は多々あるが、基本的には「踊る」ことに全生命を賭けた。ここが畑道代の生きざまと共通している点であるうかと思う。

阿国登場からざっと四百年経ってみると、歌舞伎は古典のレパートリーを持つようになった。これが二人の決定的相違点である。

菊の会の行き方は、民俗芸能に原型を学んでアレンジしている、歌舞伎舞踊は古典を学んでいる。

もっとも正統的な行き方なのは、畑道代が一方で初代尾上菊之丞の門下で、尾上菊乃里でもあることと関連している。

そこに、「温故知新」という言葉を重ね合わせることもできる。

菊の会の基盤をこしらえた功績は大きい。しかも、自分の体のいたわりをせずに、道半ばで他界された損失は大きい。後継者の方々の手でその損失を埋めて発展させてほしい、と切に願う。



清元「熊野」



長唄「浜松風」



長唄「保名」



長唄「鏡獅子」



長唄「鏡獅子」後シテ





シャンソン歌手  
仲代 圭吾

# 畑道代先生の 御逝去を悼んで



踊り風土記「雪の華」公演の楽屋前にて、左端より菊の会の寺門邦次本部長、仲代圭吾氏、畑道代前代表、仲代美都夫人

畑先生に初めてお逢いしたのは三年前、友人の寺門さんからすばらしい方に逢わせてあげると菊の会の公演を観せていただくことができました。舞踊と云うものはあまり縁がなく、昔アルバイトで歌舞伎の小道具で働いたことがあるので役者の素晴らしい舞踊を観ることがあるくらい本格的な菊の会の舞踊は初めてでした。その時の驚きと感動



は忘れることが出来ません。静かな物腰、やさしい笑顔の畑先生がさぞ稽古になるときびしく指導されるのではと想像しました。踊られる人はその指導に耐えて血のにじむ様な稽古・鍛錬を重ねた結果、観る人の心の琴線にふれ感動を与える菊の会の舞踊芸術があるのだと思いました。

舞台で踊るひとりひとりの表情が美しく生きているのが印象的でした。私事ですが遡ること六十年、学校なんて行かなくていい、仕事をしなさいと云われてうどんの製麺業をやっていた、休みのときはよく兄達矢と一緒に映画を観に行きました。駅馬車、望郷、パリのアメリカ人哀愁。中でも音楽映画カーネギーホール圧巻でした。キラ

星の様に出演する音楽芸術家指揮者フルト・ベンダラー、新進気鋭のカラヤン、ヴァイオリンのハイフェッツ、ピアノのルビンシュタイン、歌はタリアビーニ・シリアピンなど当代の芸術家が続々と名演奏を披露。カーネギーホール掃除婦の子供に歌うタリヤビニのオーソレミオを聴いて最高の極地に達しました。あの時の感動と同じものを菊の会で出逢いました。



1990年 黒澤 明監督の映画「夢」のパーティに招かれた畑道代前代表と菊の会メンバー



2010年2月 山崎直子宇宙飛行士と共に(東京會館於)



2005年 映画「夢」(水車のある村)撮影現場にて、左端より黒澤 明監督、笠 智衆氏、畑道代前代表、黒澤久雄氏



映画「夢」(狐の嫁入り)カメラリハーサルを終えて

畑先生とお話しをするときは、何か計り知えないものを感じました。大きな人生の道を成し遂げられ、何もかも超越なさったやさしい思い遣りを美しい笑顔に感じました。

菊の会の皆様、深い哀悼は永遠に続くことと思いますが、その悲しみは明日の力に代えて先生のご意志を継承し菊の会を益々発展させて日本の誇る舞踊芸術を広く日本人はもとより、世界の人人々に心の潤いと感動と生きる力を与え続けて下さい。

畑道代先生に深い哀悼の意と御冥福を心からお祈り申し上げます。





2007年映画「椿三十郎」の所作指導、(撮影現場於いて)



作曲家  
日本現代音楽協会会長  
坪能 克裕

畑先生への「追悼文」

# 「超える、ということ」

若い子の会話で使う「チョ〜〇〇」。昔から使ってきた「超ド級艦」。当たり前に使っている。超える。ということは、簡単なようで難しいのです。時間を超える、国境を超える、ジャンルを超える、世代を超える…。文化芸術に問われる大いなるコンセプトです。そのチョ〜人的だった畑先生の芸術にふれさせ



四季の叙情「風道」より



1973年インディラガンジー首相へ表敬訪問した畑道代前代表

ていただいたお話です。まず「踊り」を超えた、と私は思っています。基は日本の踊りです。それは、民俗の踊りであり、古代から平安時代、江戸時代から現代までの時間を超え、ジャンルも枠も超えていると思われま



2005年ドイツ・チェコ公演より



1973年インド公演より



1975年フランス公演より

です。肉体や物質を超えると、精神的世界の話になります。それは、超える必要も無かったのではないのでしょうか。畑先生は、音を聴く、人が動く、物語がある、などのキッカケがあるとき、そのなかに自然な動き(踊り)を感じて、そ



2004年トルコ公演より (TV中継)



1975年フランス公演より(パリ凱旋門前)



1997年インド独立50周年記念公演・日印友好文化祭に出演 (ニューデリー)

のまま絵巻のように「見えて」こられたようです。つまり自然さえも超えていました…。実際は苦しんで、やっと掴んだ踊りもあるとは思いますが、現れた踊りにはそれらを感じさせない宇宙観があったと思っています。お亡くなられましたが、それは生きること、死ぬこと、またこの世もあの世も境界を超えて踊ることが出来る、自由を勝ち得たような気がしてなりません。全てを超えて、今も踊り続けてくださっているから、私たちは悲しみを超えて幸せに感じてしまうのです。そう感じるの、きっと私だけではないと思っています。



## AS A MEMORIAL TO MICHIYO HATA

## 畑道代前代表の生い立ち

(尾上菊乃里)

- 1937年 京都で生まれる  
 1945年 12月藤間亀三郎氏(初代尾上菊之丞)に入門  
 1946年 7月京都南座で「鏡獅子」の胡蝶で初舞台を踏む  
 1950年 13歳で上京  
 1955年 9月尾上菊乃里を名取る  
 1963年 9月尾上菊乃里リサイタルを開催  
 1964年 8月ハワイにて「紀州道成寺」、先代と最後の舞台となる  
 1970年 大阪万博「日本のまつり」ナショナルデーの振付  
 1972年 4月舞踊集団「菊の会」を設立  
 1976年 三隅治雄作・演出「カッチャ行かねこの道で」で  
 芸術祭大衆芸能部門で優秀賞受賞  
 1986年 外務大臣賞を受賞  
 1988年 黒澤明監督「夢」の振付を担当



お母様と共に 2歳



22歳(鎌倉にて)



7歳のお正月



長唄「鏡獅子」を舞う 21歳



長唄「鏡獅子」の胡蝶を舞う 9歳

初のリサイタルとなった「雪姫」  
東京宝塚劇場に於いて 26歳

19歳のお正月

- 1997年より2007年まで東京新聞社主催全国舞踊コンクールに於いて弟子達35名  
 の上位入賞を果たした。同コンクールに於いて優秀指導者賞、みやこ賞を受賞  
 2002年 ポーラ伝統文化振興財団より伝統文化ポーラ賞優秀賞を受賞  
 2009年 7月邦楽と舞踊出版社より第6回 目代清「創新賞」を受賞  
 2010年 6月東京新聞社より「舞踊芸術賞」を受賞  
 2010年 8月29日逝去



先代尾上菊之丞師と共に

# INFORMATION

## 2011年菊の会公演予定

## 菊の会自主公演

## 【日本のおどり～初春に舞う～】

1月26日(水) 東村山市立中央公民館

28日(金) 町田市民ホール

時間/14:30・18:30 開演(各会場共2回公演)

※前売りチケット/自由席5,000円(当日5,500円)

指定席6,000円(当日6,500円)

## テレビ放映

## 【それいけ! 民謡うた祭り】

1月29日(土) NHK総合テレビ放送 15:05～

(神奈川県秦野市)

## 学校公演

## 【文化庁平成22年度

## 「子どものための優れた舞台芸術体験事業」

## 巡回公演事業】

2月8日(火) 青森県三戸町立三戸中学校

3月11日(金) 秋田県由利本荘市上川大内小学校

3月14日(月) 北海道大樹町立大樹小学校

## 【東京アトリエ公演】

会場: 新宿区菊の会スタジオ

3月19日(土)

20日(日)

時間/13時・16時 開演(両日共2回公演)

※前売りチケット/自由席4,200円(当日4,500円)

## 【友の会総会・懇親パーティー】

5月1日(土) 東京會館(丸の内本館)

12時 友の会懇親パーティー

菊の会のステージを御覧頂きながら東京會館の美味しいお料理で最高の  
 一日を!! 皆様のご参加を心からお待ちしております。

## 次代を担う若者達の舞踊会

## 【第12回さつき会】

5月22日(日) サンパール荒川(東京都荒川区)

※上記の日程は予定ですのでご確認の上御来場下さい。

## ■お問い合わせ

菊の会事務局 TEL 03(5983)6001 FAX 03(5983)6002

京都八瀬研修所 TEL 075(712)8701 FAX 075(712)8702